

令和4年度 第1回福岡県循環器病対策推進協議会 議事録

日 時：令和4年10月31日（月）

15:00～15:50

開催方法：オンライン開催

※議事録の文章は、実際の発言の趣旨を損なわない程度に、読みやすく整理したものです。

【司会】

定刻になりましたので、ただ今より、令和4年度 第1回 福岡県循環器病対策推進協議会を開催します。

本日は、大変お忙しい中、御出席いただきありがとうございます。本日の司会を務めます、福岡県保健医療介護部がん感染症疾病対策課課長技術補佐の松田です。よろしくお願いいたします。

はじめに、お手元配布の資料につきまして確認させていただきます。

1つ目に、次第

2つ目に、資料1「福岡県循環器病対策推進協議会委員名簿」

3つ目に、資料2「福岡県循環器病対策推進協議会設置要綱」

4つ目に、資料3「福岡県循環器病対策推進計画の個別施策に係る令和4年度事業計画」

5つ目に、資料4「福岡県循環器病対策推進計画」

6つ目に、資料5「脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業実施要綱」

7つ目に、資料6「脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業への取り組み」

以上、不足する資料はございませんでしょうか。

では、開会に当たり、福岡県保健医療介護部がん感染症疾病対策課課長の牟田口からご挨拶申し上げます。

【がん感染症疾病対策課長】

福岡県保健医療介護部がん感染症疾病対策課長の牟田口でございます。

本日は、大変お忙しい中、令和4年度 第1回「福岡県循環器病対策推進協議会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃より、本県の保健医療行政に関しまして、御指導、御支援を賜り、重ねて御礼申

上げます。

さて、本県の循環器病対策につきましては、令和3年度末に策定いたしました「福岡県循環器病対策推進計画」に基づき、今年度から個別施策の実施などに取り組んでいるところで

す。また、国は地域全体の患者支援体制の充実を図ることを目的として、「脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業」を今年度から開始するなど、循環器病対策基本法に基づきまして、様々な循環器病対策が推進されております。

本日は、今年度の本県の事業計画や国のモデル事業に選定された九州医療センターの事業計画について御説明及び御報告させていただきます。

限られた時間ではございますが、どうぞ忌憚のない御意見をいただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

【司会】

続きまして、委員の御紹介をさせていただきます。

事前配布の委員名簿のとおりですが、役員改選等により、新たに委員に御就任いただいておりますので、御紹介いたします。

福岡県医師会の一宮委員、久留米大学の森岡委員に御就任いただいております。

また、本日は、北園委員、津田委員、江田委員から欠席の御連絡をいただいております。

続きまして、事務局を紹介します。

がん感染症疾病対策課疾病対策係長の中牟田でございます。疾病対策係の梅田でございます。

なお、議事内容につきましては、後日、県ホームページに掲載予定となっておりますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

それではまず、協議事項に入らせていただく前に、昨年度まで協議会長を務めていただいております福岡県医師会の長柄先生がこの度、委員を辞任されておりますので、新たに協議会長の選出を行わせていただきたいと思います。

役員の選出につきましては、福岡県循環器病対策推進協議会設置要綱第5条により、委員の互選により定めることとなっておりますので、委員の皆様から委員長の推薦についてお伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。

推薦がないようですので、事務局から指名により推薦させていただき、委員の皆様からのご意見をお伺いしたいと思います、よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、事務局から福岡県医師会 副会長の一宮委員を推薦させていただきたいと思
います。

(異議なし)

特に御意見がないようですので、御承認をいただいたということで、一宮委員に会長をお
願いしたいと思います。

一宮会長からご挨拶をお願いいたします。

【一宮会長】

福岡県医師会副会長の一宮でございます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

ご存知のとおり、脳血管障害、心臓病の虚血性心疾患はがんと並び日本人の死因の大部分
を占めております。循環器疾患につきましては、その予防と早期の治療が必要となってきま
す。そうしなければ健康寿命を著しく短くし、長期に渡って介護が必要となってくる疾患で
ありますので、その対策をしっかりとこの場で協議できたらと思います。

この協議会は、多職種そして他分野の委員で構成されておりますので、県民の皆さまに分
かりやすい啓発ができるよう忌憚のない御意見と活発な御議論をお願いいたします。

【司会】

ありがとうございました。

それでは、以後の議事進行につきましては、協議会設置要綱第6条に基づき、一宮会長に
お願いいたします。

【一宮会長】

それでは協議事項に参ります。

次第3「協議事項」の令和4年度事業等の計画について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

それでは、事務局から御説明いたします。

本県の循環器病対策推進計画につきましては、今年3月末に策定いたしました。この計
画に基づく令和4年度の事業計画につきまして御説明いたします。

お手元の資料3「令和4年度福岡県循環器病対策推進計画に係る個別施策一覧」を御覧く
ださい。また、画面上では、概要部分を表示してまいります。

本県の循環器病対策推進計画は、全体目標として「平均寿命の増加分を上回る健康寿命の

増加」及び「循環器病の年齢調整死亡率の減少」を掲げておりますが、この全体目標を達成するために、3つの基本施策を設定しております。

1つ目が「循環器病の予防や正しい知識の普及啓発」、2つ目が「保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の構築」、3つ目が「多職種連携による循環器病患者への支援の充実」となっております。

お手元に配布の資料3では、この3つの基本施策に沿った本県の個別施策と今年度の事業計画を掲載しております。本日は今年度の事業計画のうち、主なものを抜粋して、画面に表示し、御説明いたします。

まず、基本施策1の「循環器病の予防や正しい知識の普及啓発」につきましては、基礎疾患の管理及び予防の推進の取組としまして、望ましい生活習慣や基礎疾患の管理の重要性に関する普及啓発、保険者等と連携した生活習慣病の予防や改善に係る取組を推進するために、検診受診率の向上や食生活の改善、運動習慣の定着を柱とする「ふくおか健康づくり県民運動」を実施することとしております。

また、知識の普及啓発の取組としまして、県民に対する循環器病の前兆等につきまして周知を行うために、循環器病に関する一般向けの「公開講座」を開催することとしております。

この取組のほかいくつかの項目につきましては、後ほどご説明いたしますが、国のモデル事業に採択されました九州医療センターと連携して実施する予定でございます。

続きまして、基本施策2の「保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の構築」につきましては、病院前救護体制の充実の取組として、県民に対するAEDの普及啓発を図るため、AEDの設置をはじめ、救急法等の講習会を実施することとしております。

また、救急救命士を対象に循環器病の救急処置等に関する研修会についても実施することとしております。

次に、移行医療体制の整備の取組として、移行期支援の在り方を検討するために、小児慢性特定疾病患者に対する「移行期に関するアンケート」を実施しまして、県内の移行期医療に関する患者側の現状やニーズ等につきまして、調査を行うこととしております。

続きまして、基本施策3の「多職種連携による循環器病患者への支援の充実」につきましては、情報提供支援の取組としまして、患者や家族が利用できる制度などの情報提供を行うため、ホームページや動画作成などを行うことを検討しております。

次に、相談支援体制の構築の取組としまして、循環器病患者やその家族の相談支援窓口を設置し、生活上の注意点や療養場所、後遺症等に関する相談などを受け付けることとしております。本窓口につきましては、国のモデル事業に採択されました九州医療センター内に今年度既に新設されております。後ほど、報告事項の中で、詳細について触れさせていただきます。

説明は以上でございます。

【一宮会長】

ありがとうございました。

福岡県循環器病対策の大きな3つの柱「循環器病の予防や正しい知識の普及啓発」、「保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の構築」、「多職種連携による循環器病患者への支援の充実」の3点について説明いただきましたが、委員の方々から御質問や御意見はございませんでしょうか。

(意見なし)

モデル事業につきましては、この後に九州医療センターの岡田先生から御説明いただくこととなっておりますが、これまでのところで御意見等ございませんでしょうか。

(意見なし)

事務局から追加等ございませんか。

【事務局】

特にごございません。

【一宮会長】

ありがとうございます。

御意見ないようですので、次の報告事項に移らせていただきます。

それでは、次第4「報告事項」の脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業について、事務局及びモデル事業に選定された九州医療センターの岡田先生より報告をお願いします。

【事務局】

それでは、事務局から、本モデル事業の概要及び選定の結果につきまして、これまでの経緯も含めまして、ご報告いたします。

お手元配布の資料5「脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業実施要綱」を御覧ください。

本モデル事業につきましては、国の循環器病対策推進基本計画におきまして、「循環器病患者を中心とした包括的な支援体制の構築」が求められておりますことから、多職種が連携して総合的な取組を進めることとされておりますが、これは、これまでに都道府県が医療計画などで実施している対策よりも幅広い内容であり、各医療施設で個々の取組はされているものの、すべての支援について十分なレベルで提供されているとは言えない状況となっ

ております。

モデル事業では、専門的な知識を有し、地域の情報提供等の中心的な役割を担う医療機関に「総合支援センター」を配置し、都道府県や地域の医療機関と連携を取りながら、総合的に施策を進めることとされています。

画面上の次のスライドの図は、総合支援センターのイメージになります。

役割としましては、患者や地域住民への循環器病に関する情報提供や相談支援につきまして、都道府県や医療機関等と連携しながら、地域における核となり、中心的な役割を担うこととされています。

国は、モデル事業の有効性を検証した上で、好事例として横展開を図るなど将来的に全国に広げることとしております。

次のスライドになりますが、本県の医療機関からは、6つの事業者から応募をいただき、今年3月に開催いたしました本協議会にて選考を行いまして、独立行政法人国立病院機構九州医療センターを本県の事業者として国へ推薦したところです。

次に、国による選考結果ですが、28自治体32病院からの応募があり、今年6月に本県推薦の九州医療センターを含む10自治体12病院が選定されたところです。なお、大学病院以外で選定されたのは本県の九州医療センターのみとなっております。

モデル事業の概要及び選定結果の説明は以上でございますが、モデル事業の事業計画につきましては、選定された九州医療センターの岡田委員から御説明いただきます。どうぞよろしくお願いたします。

【一宮委員】

ありがとうございました。

それでは、岡田先生よろしくお願いたします。

【岡田委員】

よろしくお願いたします。

本事業の採択にあたりましては、福岡県や九州大学の筒井教授、北園教授からも御支援をいただきまして、このような採択となりましたことをまずは感謝申し上げます。

また、医師会の先生方にも大変な御支援をいただきましてありがとうございます。

本事業は今年6月8日に選定されまして、それ以降は、病院の中でも毎月1回多職種で会議を開きながら事業を少しずつ進めております。

8月にまず院内での入院患者の相談事業を開始しまして、9月末に県内の相談窓口とい

うことで、正式にモデル事業をスタートしまして、福岡県と連携してスタートしております。

九州医療センターの病院ホームページにも現在、相談支援センターのことを掲載しております。また、開設のご案内ということで、福岡県民を対象としておりまして、相談窓口については相談無料としております。それから、相談窓口には地域連携室に所属する看護師が窓口となりまして、相談内容に応じて医師、薬剤師、栄養士、リハビリテーション、医療ソーシャルワーカー、研修を受けた脳卒中・心臓病等の担当看護師が担当して患者とご家族の生活上の注意点や療養場所、後遺症や仕事と治療のことなど様々な疑問や不安に対して一緒に考えていく支援を始めたところです。

また、福岡県のホームページにも相談窓口に関する情報を掲載していただきました。このホームページの掲載と広報により複数の報道機関からの問い合わせもありまして、いくつかの新聞にも記事を掲載していただきました。

次に、九州医療センター内で作っているリーフレットですが、ここにも多職種で相談支援を行うことや、脳卒中・心臓病等担当看護師につきましては、循環器の方では、心不全療養指導士、それから脳卒中の方では、脳卒中療養相談士という、それぞれ学会の研修を受けて認定を受けた者が担当をするということでスタートをしております。

利用の流れとしては、看護師が予約を取り、外部からの場合は予約された日時に担当する相談員が面談を実施。そして、様々な施設とも連携をして情報提供を行うこととしております。相談は、準備も含めまして概ね1人につき30分程度で、現状では現地での面談、または電話での相談ということにしております。今後は、遠隔でのiPad等を用いた面談にも対応できるように準備を進めていきます。

脳卒中についても仕事と治療の両立や就労支援といった問題がかなりクローズアップされてきておりますので、これにつきましては、産業医科大学の佐伯教授に御支援をいただいで進めていきたいと考えております。

その他、食生活でも栄養、薬剤の指導、こういったものが相談内容になってきております。

次に、運用フローチャートとトリアージ実施手順を示します。

これに基づいて現在、九州医療センターの脳血管ハイケアセンターの方が脳卒中を担当し、心血管ハイケアセンターの方が心臓病を担当するなど、具体的に担当者が決まっております。

こういったトリアージ手順は、県内で横展開した時には、情報提供をしたいと思っております。

次に、患者さん視点の退院前の相談例を示します。

やはり生活上の注意、薬をずっと飲み続ける必要があるのかどうかや、病院を急性期の病院から離れる際の不安に関することが多く、それから地域に戻ればかかりつけの先生をどうするか相談もあり、かかりつけ医との連携といったお話も進めていきたいと思っております。

それから後遺症の問題が患者さんの不安の中で大きいということで、そういったお話も

専門家への紹介に繋がりたいと思っております。

また、再発の不安や、自立できる環境づくり、脳梗塞が起こるとイコール認知症になるのかといった不安を持っておられる方もいます。また、持病を持つ方の治療では、再発予防薬との関係がありますので、他の診療科との情報共有が重要になってきます。

また、周囲の人も後遺症があると随分と気を使ったりしていきますので、こういったところでの問題についても相談を受けていきます。

次は、「脳卒中と循環器病克服第二次5カ年計画」の話題です。

脳卒中学会の方で定めた脳卒中センターの基準が示されていますが、この血栓回収脳卒中センターにおいては、脳卒中患者及びその家族に対して様々な情報を提供できる「脳卒中相談窓口」を有することとされています。今年度から脳卒中センターについては、学会主導で窓口に対応する準備が進められています。

これは脳卒中・心臓病等の総合支援事業とは別に、全国の脳卒中血栓回収を行うことが出来る脳卒中センターには、こういった整備が進められているということでもあります。

また、今まで急性期病院では急性期の治療を行った後は、相談はメディカルスタッフへ、リハビリは回復期へという流れになっていたのですが、やはり基本法があって、拠点病院のようなものが整備されてきますと、がん拠点病院に相談窓口が出来たように、急性期病院からワンストップで様々な不安や問題を受けとめ、回復期からかかりつけの先生まで、相談を広げられるような相談事業をスタートする。急性期から患者・家族への説明と相談支援対応が、今後大事になってきますと啓発資料に追記しました。

次に、5カ年克服計画の中のシームレスな医療・介護体制の整備で、急性期、回復期、そして地域包括ケアシステム、かかりつけの先生まで、今後連携をしていくということが重要です。

この一次脳卒中センターからかかりつけの先生まで、様々な多職種が関わりながら連携パス等で医療・介護を整備し、平均寿命と健康寿命の乖離の縮小だけではなく、患者さんに寄り添った医療の質の向上も目指していくということでございます。

追加資料ですが、相談事業の実績について、最近のものをまとめております。

九州医療センター内で受けた脳卒中の相談では、やはり、食事や入浴など日常生活動作、不安・精神的苦痛、後遺症やリハビリテーションのことなどが多いようです。

また、相談に対する簡単なアンケートを取っています。

それから、心疾患に関する相談としては、薬のことや、リハビリテーション、心臓病があつての食事や入浴など日常生活動作をどのようにしたらいいのかという質問が非常に多く寄せられています。

また、相談内容の内訳のデータも集計を始めました。相談に対するアンケートも比較的良い反応をいただいているところです。

まとめです。県の御支援もありまして、モデル事業に選定されました。

運用マニュアルを作成し9月26日より相談窓口を広報して活動しています。

今年度は、循環器学会と合同で、筒井教授の日本循環器学会総会（福岡）で市民公開講座をさせていただきます。それから、10月は脳卒中月間で脳卒中協会に依頼して、この事業の一環としてウェブで市民公開講座を開催させていただきました。

その他、多職種への研修会としましては、12月12日に保健師向けの脳卒中と心臓病の研修会、それから来年2月10日頃には、かかりつけ医を対象とした講習会をこの事業の一環として計画をしております。

その他すでに終了しましたが、10月21日には、県内の救急救命士95名を対象とした脳卒中の病院前救護に関する研修会を九州医療センターの講堂で、福岡県の消防防災局の方々と共同で開催をいたしました。

今後は、脳卒中・心臓病等モデル事業で、このような困りごと希望を分析して支援し、さらに県内の医療機関の予防啓発と患者支援体制や相談事業の整備を横展開して、支援を続けていきたいと思っております。

説明は以上です。

【一宮委員】

ありがとうございました。

事務局及び岡田委員からの御報告が終わりましたが、ただいまの御報告について委員から御質問等ございませんでしょうか。

【森岡委員】

久留米大学の森岡です。

脳卒中学会が今年度から始めている脳卒中相談窓口ですが、幅広い施設で開設していくことになっていくと思いますが、これとの関係については、モデル事業のノウハウなどを相談窓口にも広げていただくような感じなのでしょうか。

【岡田委員】

是非そのようにしたいと思っております。

このモデル事業は、脳卒中だけではなく心臓病の方も病院の中で一緒に取り組んでいくということで始めているのですが、脳卒中相談窓口も同じノウハウでやれると思っておりますので、県内の脳卒中センターにも情報提供はしていきたいと思っております。

【森岡委員】

是非よろしく願いいたします。

【一宮会長】

ありがとうございました。

他に御意見、御質問ございませんでしょうか。

【市原委員】

御説明ありがとうございました。

九州医療センターがモデル事業に選定されて、これほど沢山の計画をされていたことに気づきませんでした。

患者会としまして、コロナ等々で活動が出来ていないのですが、活動が出来ていないだけに引きこもり状態になっている患者さんなどから、脳卒中協会の方によく電話がかかってくる。そういった電話相談を私が受けておりまして、そういったところでもし連携が出来れば、やらせていただけたらなと思っております。

【岡田委員】

ありがとうございました。

電話で患者相談支援されていることを存じ上げなくて申し訳ありません。

是非一緒にやっていきたいと思えます。よろしく願いいたします。

【市原委員】

よろしく願いいたします。

【一宮会長】

市原委員、貴重な御提案ありがとうございました。

他に御意見、御質問ございませんか。

【筒井委員】

九州大学循環器内科の筒井でございます。

岡田先生の御報告どうもありがとうございました。

九州医療センターの方で相談窓口が設置されて、マニュアルに基づいて今年9月から相談を受け付けておられるということで、順調にこの事業が進んでいるということでどうもありがとうございます。

脳卒中と循環器病の方で取り組んでいただいて、大変素晴らしい状況で、本当にありがとうございます。

これから市民公開講座やかかりつけ医を対象とした研修会など、院内の相談窓口だけでなく、外に向かって広げていただけるということなので、岡田先生がおっしゃったように県の方との連携していただき、あと学会の活動などとも連携して、幅広く横展開していただけるように期待しております。

お願いとしては、患者さんの相談支援は非常に重要で、色々な資材が使われていると思い

ますが、一般的なものも重要なのですが、やはり福岡県ならではの地域の医療の状況などを盛り込んで、福岡の医療機関や他の相談窓口で使えるような、そういった相談支援の福岡県版を是非先生方と相談の中で作っていただければと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

【岡田委員】

ありがとうございます。

是非そのように取り組みたいと思います。

【一宮会長】

筒井先生どうもありがとうございます。

他に御意見、御質問ございませんか。

(意見なし)

全国で10の自治体、12施設で、このモデル事業が始まったわけですが、福岡県では、唯一大学病院ではない中核病院である九州医療センターが岡田先生を中心にやっていたところですが、9月からこの窓口を開設して1か月程の間に、既に100件弱の相談があつているということで、大変意義のあるモデル事業になっているのではないかと思っております。

岡田先生、今の時点で何か問題等ございますか。

【岡田委員】

外部からの相談は、まだ11件程となっております。

これまで県の方で広報をしていただいて、新聞に掲載されますとそれを見て電話をかけてこられる方がいまして、掲載2回にわたって5～6件ずつ電話がきております。

それ以外は入院患者の退院時の様々な相談ということで、通常の保険診療内の指導とは別に相談の時間を取ってやっております。まだ、この相談というのが診療報酬上、認められたものではないので、やはりある程度、意気込みと余力を持った施設で、多職種でやっていけないので、横展開するためにはモデル事業のある程度のノウハウを先生方にも届けたいと思います。そして将来的には、こういった相談の意義が認められ、様々な病院のプラスになるように組み入れていきたいと思っております。

そういったところまで発展させることが、今後の課題かなと思っております。

【一宮会長】

ありがとうございます。

100件弱程の相談があっていますが、まだ外部からの相談がそれほど多くないということですが、広報によって少しは増えるということなので、県行政の皆さまにも是非そういう工夫もしていただきたいと思ひますし、先ほど市原委員、筒井委員からの御提案のように横展開をして、是非活発に広げていただきたいと思ひます。

それでは、全体を通して御質問や御意見はございませんでしょうか。

(意見なし)

なければ、以上で、本日のすべての議事を終了いたします。

事務局は、本日の意見を踏まえて、循環器病対策の更なる推進に取り組んでいただきますようよろしくお願いいたします。

また、委員の皆さまにおかれましては、引き続きそれぞれの立場からのご支援やご助言をお願いいたします。

本日は、円滑な議事進行に御協力いただき、ありがとうございました。

それでは、議事進行を事務局にお返しします。

【司会】

一宮会長、ありがとうございました。

また、委員の皆様におかれましては、貴重な御意見や御助言をいただき、誠にありがとうございました。

今後、計画に基づいて個別施策を実施するとともに、次期計画の策定に向けての第2回協議会を来年2月頃に予定しております。

引き続き、一宮会長をはじめ、委員の皆さまからのお力添えをお願いいたします。

それでは、これを持ちまして、令和4年度第1回福岡県循環器病対策推進協議会を終了します。

本日は、誠にありがとうございました。